

15日 日曜

ネヘミヤ

8:13 二日目に、民全体の一族のかしらたちと、祭司たち、レビ人たちは、律法のことをよく調べるために、学者エズラのところに集まって来た。

8:14 そして彼らは、【主】がモーセを通して命じた律法に次のように書かれているのを見出した。すなわち、「イスラエルの子らは第七の月の祭りの間、仮庵の中に住まなければならない。

8:15 また、『山へ出て行き、オリーブの葉、野生のオリーブの木の葉、ミルトスの葉、なつめ椰子の葉、また茂った枝木などの枝を取って来て、書かれているとおりに仮庵を作るように』と、自分たちのすべての町とエルサレムに通達を出して、知らせなければならない」とあった。

8:16 そこで民は出て行き、枝を取って来て、それぞれ自分の家の屋根の上や庭の中、また神の宮の庭、水の門の広場、エフライムの門の広場に、自分たちのために仮庵を作った。

8:17 捕囚から帰って来た全会衆は仮庵を作り、その仮庵に住んだ。ヌンの子ヨシュアの時代から今日まで、イスラエルの子らはこのようにしていなかったもので、それは非常に大きな喜びであった。

8:18 神のみおしえの書は、最初の日から最後の日まで毎日朗読された。祭りは七日間祝われ、八日目には定めにしたがって、きよめの集会が行われた。

仮庵のまつりとは収穫を神に感謝するもので、簡単な仮の小屋を作ってそこで過ごすものです。それはまた、イスラエルの民がエジプトから逃れて荒野を旅したときのことを記念するものでもありました。



彼らは約束の地に入るまでは、仮の住まいであったのです。しかし、そこに主の守りがあり、こうして農業できるのも、主の恵であるということをお忘れなためです。

そのような大切な祭りが長い間守られていませんでしたので、イスラエルの民はそれを悔い一つも今は喜んで従ったのです。

主の命令をお忘れていることはないでしょうか。何かの出来事が重なって、それを果たしていないということはないでしょうか。交わりや共同体によってすべきことで、お忘れていることや気づいていないことはないでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

